

授業にピタッ！とデジタル教科書

こんな実践
あんな実践

公民

① 現代社会の学習でのデジタル教科書活用例 ～資料の読み取り、予測から協働的な考察へ

国立市立国立第一中学校 主任教諭 古田 一博(ふるた かずひろ)

◆**単元名**：第1章 私たちの暮らしと現代社会 2 私たちが生きる現代社会

「③誰もが活躍できる社会へ」(教科書 pp.18-19)

◆本時の目標：

合計特殊出生率の減少と平均寿命の延伸の影響により、日本が超高齢社会になったことをとらえ、「世代を超えてつながり、ともに生きる社会の実現」に向けた展望と課題について、多面的・多角的に考察する。

《本時の展開例》

	学習活動	留意点	デジタル教科書・教材
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ●資料④を見て読み取る。 【問】日本が第1位のこのグラフは、何の割合を示したグラフだろうか。 【問】なぜ日本の高齢化率は上昇しているのだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマを予想させながらグラフを見せていき、日本の高齢化率が世界第1位であることに着目させる。 ・日本の高齢化率が上昇している原因について、地理での学習を振り返りながら考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書〈p.184・④「高齢化率の交際比較」〉をスクリーンに映し出す。棒グラフを順に表示したあと、最後にグラフのタイトルを表示する。
展開 (35分)	<ul style="list-style-type: none"> 【問】日本の人口や人口構成は、今後どのように変化するだろうか。グラフを参考に予想しよう。 【問】「世代を超えたつながりがもたらす効果や課題」について、次の①～④の視点からグループごとに考察しよう。 ①家族(子育て、介護等) ②地域(交流スペース、見守り活動、伝統文化等) ③社会保障(年金、医療等) ④情報社会 ●共同編集ができるアプリ等を用いて発表スライドに意見を書き込む。 ●整理した内容を、グループごとに発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「人口ピラミッド」と「合計特殊出生率の推移」を関連付けて読み取るように指導し、日本の人口減少が進んでいる現状を捉えさせる。 ・増加する一人暮らしの高齢者に、地域や社会保障、情報社会がどのようにつながり、社会を支えているのか、多面的に考察させる。 ・「小学生の通学を見守る高齢者」の写真を参考に、世代を超えて助け合うことの大切さに気づかせる。 ・グループ内の話し合い活動は、言葉による表現が苦手な生徒を考慮し、発表スライドに意見を書き込みながら整理していく形でも良いことを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書〈p.18・③「子どもの出生数と合計特殊出生率の推移」、p.19・⑤「総人口と年齢別人口の割合」(人口ピラミッド)〉をスクリーンに映し出す。 ・デジタル教科書〈p.19・⑦「一人暮らしの高齢者の数の推移」、⑧「朝の見守り活動をする高齢者」〉をスクリーンに映し出す。 ・1人1台端末を活用して、考察した内容についてグループごとに簡単な発表スライドを作成し、スクリーンに映し出す。 (※作成に際しては、GoogleやMicrosoftなどのアプリ等を適宜活用・併用されたい。)
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> 【問】「世代を超えてともに生きる社会」では、どのようなことが求められるだろうか。 ●個人で意見をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループの「世代を超えたつながりがもたらす効果や課題」を参考に、協働学習の成果をさらに広げ、考察が深まるように指導する。 	

◆指導にあたって：

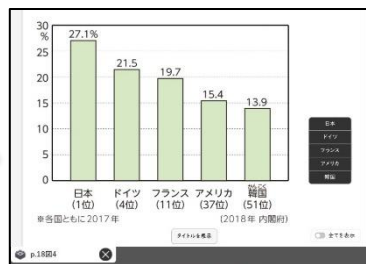
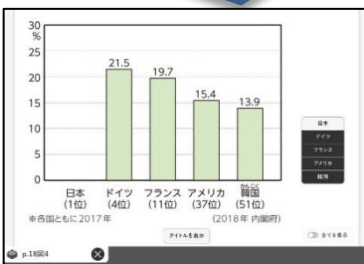
- 本時では、p.18 の LOOK!にある「世代を超えたつながり」をキーワードに授業を計画した。特に、p.19 の7「一人暮らしの高齢者の数の推移」のグラフからは、高齢者の地域社会からの孤立や孤独感から生じる「孤独死」防止への対応、特殊詐欺による犯罪被害からの保護、高齢者を取り巻くさまざまな課題への対策が求められることに気づかせたい。
- 家族内での介護や子育ての手伝い、地域における伝統文化の継承においてなど、高齢者とは身近な場面で「直接的」なつながりがある。その一方で、働く世代と高齢者世代との間の「社会保障」を通じた「間接的」なつながりなどもあることに気づかせ、世代を超えてともに生きていく中で、どのような効果と課題があるかを考察させたい。さらに、前時 (pp.16-17) の「情報社会」の学習もふまえ、「世代を超えたつながり」にインターネットがどのような効果をもつのかを考察させるとともに、デジタルデバイド（情報格差）によって生じる世代間格差についても考えさせたい。それぞれの立場や視点から、多面的・多角的な考察を協働的に行えるように指導していきたい。
- 教科横断的な視点から、家庭科の「世代を超えた交流」や「異なる世代の人々の関わり」や、保健体育科の「個人の健康と社会の取り組み」などの学習内容を生かすことができる。他教科での既習内容とのつながりも意識させたい。

◆デジタル教科書活用のねらい：

- 導入では、「高齢化率の国際比較」のグラフを映し出し、棒グラフを順番に表示する機能を利用して、生徒の予想を交えながら学習内容への関心を高めていきたい。また、p.18 の1「になニーナでの人々の交流」や、p.19 の8「朝の見守り活動を行う高齢者」の写真を映し出すことで、「世代を超えたつながり」の良さや効果について生徒が相互に意見を出し合える場をつくりたい。

【発問】「世界各国の比率から予想されるこのグラフは何だろう?」「日本は何%くらいだろう?」

【発問】「世代を超えたつながりの良さは、どのようなことだろう?」



◆授業の改善案・さらに活用するポイント：

- 「社会的な見方・考え方」を養うために、棒グラフや折れ線グラフ、人口ピラミッド、写真などの資料から読み取れる内容について、生徒が相互に関連づけていけるよう指導したい。

